

# 因北中学校 研究だより

学びを深める  
～互恵的な授業づくりを通して～

令和元年10月10日（木） 第4号

## ●10月9日（水）に三幸小学校で開催された第2回「学びの変革」推進協議会について報告します。

### 1 本年度の授業改善に係る尾道市の重点について

- ・授業における「振り返り」の充実に重点を置くことになっています。ここで言う「振り返り」とは、本時の授業を振り返る活動であり、本校では「まとめ」と定義しているものです。

### 2 研究授業について

- ・6年生の総合的な学習の時間にサイクリストに紹介する向島のマップ作りをしており、本時は、個人が作ったマップを班内で説明し相互評価し合う授業でした。児童は活発には説明し、相互評価の場面では約1分で付箋紙一杯にコメントを記入する等、積極的に活動していました。

### 3 事後協議会で話題になった授業づくりのポイントについて

- ① 小中連携・向島中校区では「聞く」「話す」「話し合い」の共通スタンダードを作り実施しており、授業のベースづくりが進んでいる。
- ② 理由付け・説明の際に理由付けを行うことで、聞く側は意見を出しやすくなる。
- ③ 「相手」の想定・「サイクリストにとって」と考える視点が明確になるので深まりやすくなる。
- ④ 資質・能力の意味・「主体性」の具体的な姿を出し合うことにより、目指す生徒像が明確になる。
- ⑤ 体験の活用・様々な体験をつなげていくことで「主体性」が醸成されていく。
- ⑥ 対話を活性化させる手立ての工夫・作成した地図をボードに貼って説明させるという少しの工夫で、見やすくなるため交流がスムーズにいく。
- ⑦ 評価ルーブリック・子どもが考えて作ることで、参加意欲が高まり主体的な学びにつながる。

### 4 本校で取り入れられること

#### ◎ルーブリック評価を生徒がつくる

- ・活動形態が明確な学習の場合（総合的な学習の時間や特別活動、単元によっては教科も）、「どのようなゴールを目指すか」を生徒に考えさせてから学習に入るという展開はできると思います。生徒の参加意欲を高めるために、意図的に活用していくとよいと感じました。

#### ◎対話的な話し合いを作るためのポイント

- ・伝えたいと思う時は「相手の目を見て話す」ものです。伝えたいと思っているか評価したり、話し方を指導したりする際に有効なポイントだと思います。
- ・前回の校内研修でも話題になりましたが、話し合いは2巡目入った時に深まっていきます。他者の意見に対して「でも・・・」という発言につながるよう、展開を考えたり時間を確保したりすることが大切だと思います。

◆2学期は「話し合い」に重点を置いて単元づくりや授業展開の改善に取り組んでおられることと思います。上に紹介したこと参考にして授業改善を進めていただければ幸いです。これからも、生徒の「互恵的な学び」が深まるよう、お互いに知恵を出し合っていきましょう！